

やまとえんしゅうりゅう みらい 大和遠州流の未来を見つめて

ナヲからトミへ引き継がれた大和遠州流は、20代となる後継者を探しておかなければなりませんでした。

そんな時、ナヲの次女チヨの次男瀬谷豊が子どもの頃からナヲ、トミに可愛がられ、稽古のため留萌に来ていました。

そして、豊からトミの養子(※27)になっても良いという話があり、ナヲは喜びました。

トミは「実の両親がそろっているのに、養子なんてかわいそうだ。困っている時に力になってくれれば良い。」と言って、はじめは遠慮しました。

しかし、豊の並々ならぬ決意を知り、昭和33年(1958)にトミは豊を養子とし、後継者としました。

※27 養子

ほかの家から子どもをもらって、自分の子どもとすること